



固定観念をぶち壊そう

コロナ危機の中でも、人は笑顔になれる
私は、そんな言葉は信じない
どうせ解決できない苦しみがあれば、笑顔になんかな
れるはずがない
それでも、みんなは勝手に言うであろう
専門的な知識がなくても、苦しむ人の力になれる
医療者ではなくても、苦しむ誰かの支えになれる
たとえ解決できない苦しみを抱えていても
たとえ時間を過去に戻すことができなくても
わかってくれる誰かがいたならば
その人にとっての尊厳が守られるのであれば
笑顔を取り戻すことは可能である
しかし、それは間違いだ
苦しんでいる人が笑顔になんて、なれるはずがない
知識のない私が、苦しむ人の力になれるはずがない
苦しむ人は、専門家に助けてもらえばよい
もう私にできることなど何もない
もはやこの世は絶望である

この文章を、後ろから前へ
一行ずつ読みかえしてみると全く世界が変わります

もはやこの世は絶望である
もう私にできることなど何もない
苦しむ人は、専門家に助けてもらえばよい
知識のない私が、苦しむ人の力になれるはずがない
苦しんでいる人が笑顔になんて、なれるはずがない
しかし、それは間違いだ。
笑顔を取り戻すことは可能である
その人にとっての尊厳が守られるのであれば
わかってくれる誰かがいたならば
たとえ時間を過去に戻すことができなくても
たとえ解決できない苦しみを抱えていても
医療者ではなくても、苦しむ誰かの支えになれる
専門的な知識がなくても、苦しむ人の力になれる
それでも、みんなは勝手に言うであろう
どうせ解決できない苦しみがあれば、笑顔になんかな
れるはずがない
私は、そんな言葉は信じない
コロナ危機の中でも、人は笑顔になれる
固定観念をぶち壊そう

コロナ 4C チャレンジ

小澤竹俊

コロナ対策としてできること

最悪の事態を想定し、最善を考える1つとして、めぐみ在宅クリニックでは、スタッフを2つのチームにわけ、更衣室からワークスペース、休憩室、トイレや当直室まで、2つのゾーンにわけることになりました。これにより、仮に濃厚接触者となったとしても、毎日の診療を必要とする重度の患者さんの診療を継続することができると考えております。
とはいえ、介護施設でクラスター発生が起これば、かなりの確率で高齢者のいのちが危機に瀕する危険性が高くなります。首都圏では第1波がピークアウトとなり緊急事態宣言も取り下げられる可能性があります。しかし、必ず第2波はやってきます。特に高齢者施設への感染対策とメンタルケアは、今後さらに必要とされてくるでしょう。
めぐみ在宅クリニックは、配置医として特定の施設を応援することはしていませんが、看取り対応の支援として、複数の施設を応援しています。今後もそれぞれの施設を支援していきたいと考えています。



写真は、クリニック前のツツジです。

診療実績

	2006- 2019年	2020年 1月	2月	3月	4月	2020年 計	総計
訪問回数	81,109	770	736	709	665	2,880	83,989
自宅永眠	2,470	14	20	10	15	59	2,529
施設永眠	409	4	6	7	8	25	434
在宅 (自宅+施設)	2,879	18	26	17	23	84	2,963
病院永眠	794	6	7	7	8	28	822